

外貨準備での米ドル離れと金の積み増しが続く

金(スポット)価格は、2022年11月以降、上昇基調を辿り、足元では歴史的な高値圏で推移しています。一方で、米ドルは主要通貨に対して、底堅く推移する場面もあったものの、軟化傾向となっています(図【A】)。

一般に、金や米ドルの相場変動には金融政策など様々な要因が絡むものの、こうした近年の両者の対照的なパフォーマンスには、世界の主要な通貨当局(中央銀行など)が外貨準備における米ドルへの偏重を見直しながら、金保有を増やす動きに出ていることが影響しているとみられています(図【B】)。

国際政治経済情勢を映す構造的な背景の存在

こうした外貨準備を巡る通貨当局の動きの背景には、

①米国の政府債務水準の上昇などを受け、これまで国際金融システムでの中核的位置を占めてきた米ドルへの信頼が低下していること、

②中国やロシアなどの通貨当局が、米国による米ドル建て資産の凍結といった制裁リスクへの備えを進めていること、

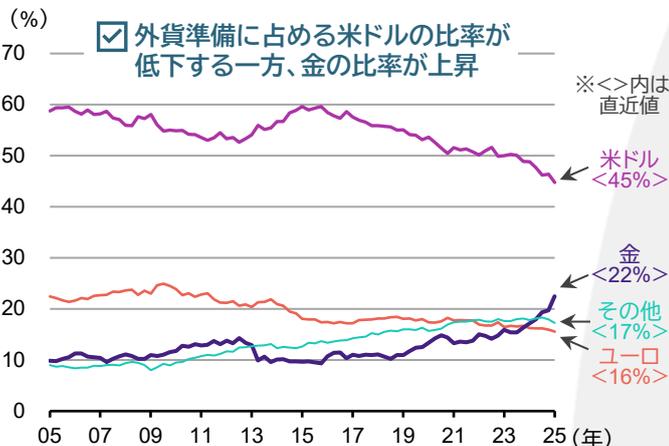
③地政学リスクや米関税政策など、金融市場の変動性やインフレ圧力を高める要因に事欠かない中、金の普遍的な価値への評価が高まっていること、

などがあると指摘されています。

いずれも近年の国際政治経済情勢を映す、構造的な背景といえ、短期的に大きく変わるものではないと思われます。

【B】世界の外貨準備(通貨と金)構成比率の推移

(2005年1-3月期～2025年1-3月期、四半期)



ワールドゴールドカウンシルなどの信頼できると判断した情報をもとにアモーヴァ・アセットマネジメントが作成

※【B】、【C】に記載の比率は四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。

※各指数の著作権等の知的財産権その他一切の権利は、各指数の算出元または公表元に帰属します。

●上記は過去のものおよび展望であり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

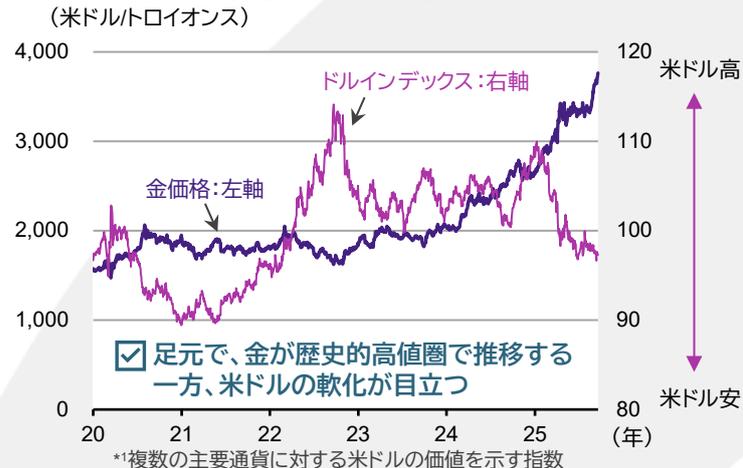
通貨当局は金の構成比率の更なる上昇を想定

金の国際的な業界団体であるワールドゴールドカウンシルが2025年2月から5月にかけて通貨当局を対象に行なった、向こう5年間の外貨準備構成比率の展望に関する調査では、回答機関の72%が金の構成比率について「やや上昇」と回答しました。一方で、米ドルについては、45%が「やや低下」、28%が「大幅に低下」と回答しました(図【C】)。

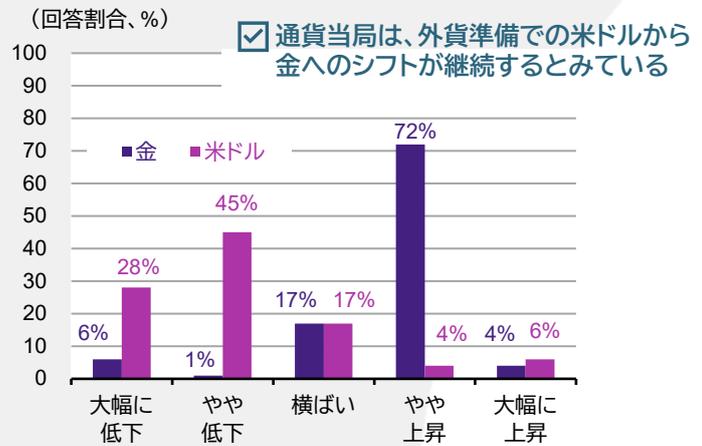
こうした通貨当局の外貨準備構成比率に関する展望と、前述の構造的な背景を踏まえると、世界の通貨当局が外貨準備の資産構成において米ドルから金へのシフトを進める動きは当面継続し、金相場を支える一因になると考えられます。

【A】金(スポット)価格とドルインデックス*1の推移

(2020年1月6日～2025年9月23日、日次)



【C】金と米ドルの外貨準備構成比率の展望*2



*2外貨準備における金、米ドルの構成比率の向こう5年間の増減見通しについて、2025年2～5月に通貨当局を対象として行なった調査の結果

2025年9月1日付で、日興アセットマネジメント株式会社から社名変更しました。

当資料は、アモーヴァ・アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。